

SHIMADZU

進取果敢

島津製作所
代表取締役社長
中本 晃



書家
木下真理子

雅号は『木下秀翠』。読売書法会幹事。
昨今流行の「筆文字アート」やデザイン性を重視
した「商業書道」とは一線を画した、古より継承
されている伝統書道を探究。



進取果敢【しんしゅかかん】強い決断力をもつて、思いきって物事を行うさま。

東日本大震災で被災された皆様ならびに関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
私たちは、社是「科学技術で社会に貢献する」を心に刻み、復興のために尽力してまいります。

今年で創業136年を数える島津製作所は、「科学技術で社会に貢献する」を社是として、社会の幸福に資することをめざし挑戦を続けてきました。東日本大震災を機に、いまこそその思いを新たに、復興へ力を惜しまないとの決意を「進取果敢」という言葉に込め、現代を代表する書家・木下真理子さんに揮毫していただきました。

科学技術で社会に貢献する

中本 木下さんは茨城県のご出身と伺いました。今回の大震災で、ご実家に被害はありませんでしたか。

木下 ご心配いただきありがとうございます。実家は大きな被害を免れ、両親も無事でした。しかし、被災された方々のご心痛を思うと、自分たちだけが「幸いにも」とは言えません。

中本 本当に大変な被害でした。私どもとしても取り急ぎなにかできることを考え、災害地で使用可能な移動式X線撮影装置を10台被災地に送らせていただきましたが、これで支援を終わらせるわけにはいきません。

木下 復興に向けて企業のみならずの役割はとて大きいと思います。先日私は阪神淡路大震災で被害を受けた淡路島をお訪ねしたのですが、完全に復興するまでに10年以上もの時間が必要だったそうです。それが今回はさらにあだけの広さです。いったいどれくらい時間がかかるかさえわかりません。そんな長期間になるとボランティアの力にも限界があります。これまで企業の社会貢献活動は、本業とは別の次元で語られがちでしたが、ソーシャル・ビジネスというのであれば、社会貢献をビジネスとすることができないのでしょうか。

中本 おっしゃる通りです。私たちは1875年の創業以来、「科学技術で社会に貢献する」という社是を掲げてきました。その科学技術をどのように用いるかという原点に立ち返ったとき、常に社会の幸福に資するべきだと唱えてきたのです。そして幸福とは何かと問われれば、私は心の平安、安心だと答えます。私たちが提供している医用機器や分析装置は、身体の健康と食品や工業製品の安全性を高めるために用いられています。今回、地震によって社員の間にも動揺が広がりましたが、こうした事業を推し進め、被災地の方々の健康や安心のために役立ててもらおうことが、私たちにできる最大の貢献ではないか。むしろこうした時期だからこそ、事業の手を緩めることなく、なお加速していくと呼びかけたところです。

新しきに果敢に挑戦 培ってきた進取の気風

木下 私は書道を通して、太古の人は、何を表そうとして一つの文字の形を作ったのか、どんな空気を感して書いたのかと、目には見えない本質を見極めようという格闘をしています。

一方、島津製作所は分析装置など科学の目を通して、当たり前のことを当たり前としてとらえては見えない、物の理(ことわり)を追求されていますね。分野は違いますが本質を追い求めるというところに共通点を感じています。そして今の中本社長のお話で、「進取果敢」を選ばれたお気持ちも、よくわかりました。

中本 「進取果敢」は、私たちのDNAのようなものです。本当に社会の役に立つものであれば、どんな新しいものでも決して尻込みせず、果敢に挑戦してきました。いま私たちは大変な困難に直面していますが、だからといって私たちが培ってきた精神を変えてはいけません。私たちに期待してくださっているお客様のために、ひいては社会のために、挑戦を続けようと思いを新たにしています。

想像力を携え共生社会に向けて

木下 被災地の映像やニュースに、私を含め多くの方が大変なショックを受けました。そして、この地震によって、私たちがこれまで培ってきた価値観は誤りだったのではないかとという疑問を突きつけられた気がしています。私たちの社会は、徹底して効率化を進め、大量生産、大量消費、大量廃棄することを行ってきた。いっしょにそれが常識になってしまい、本当に大切なことを置き去りにしてきたのではないかと思われることしきりです。

中本 そうかもしれません。企業も、その姿勢が問われていることに変わりはありません。私たちをはじめ日本の製造業は、技術力を磨き、イノベーションを重ね、日本ブランドを高めてきました。ところが、これまで築き上げられた日本の技術への高い信頼が、大震災という自然の猛威に直面し、「想定外」という言葉のもとに失われかけています。私は、今回どのような事態も決して想定外であってはならないと改めて痛感しました。社会に対して影響を及ぼす者はすべて、自分たちの行いにどのようなリスクがあるかを十二分に吟味して行動しなければなりません。いま私たちは、これまでの吟味が十分だったか。もし不足していたとしたら、それを補い、今後は間違いなく行動できるのかと問われているのだと思います。

木下 リスク管理とは、どれだけ自然や周りの人々を思いやるかだと思います。古の日本人は、人と人とのつながり、人と自然、人とのつながりを大事にしていました。今風に言えば「共生」ですが、このような思想を、今再び見直すことが必要なのではないでしょうか。

中本 その通りだと思います。社会とは、すなわち人と人のつながりです。社会の幸せに貢献することを願うのであれば、人のことを想像する力がなくてはなりません。その人が困っていることは何なのか。何があればその人に安心してもらえるか。技術に携わる者が決して欠いてはいけないもの、それが想像力だと私は信じています。

株式会社 島津製作所

分析計測機器 | 医用機器 | 航空機器 | 産業機器

<http://www.shimadzu.co.jp>